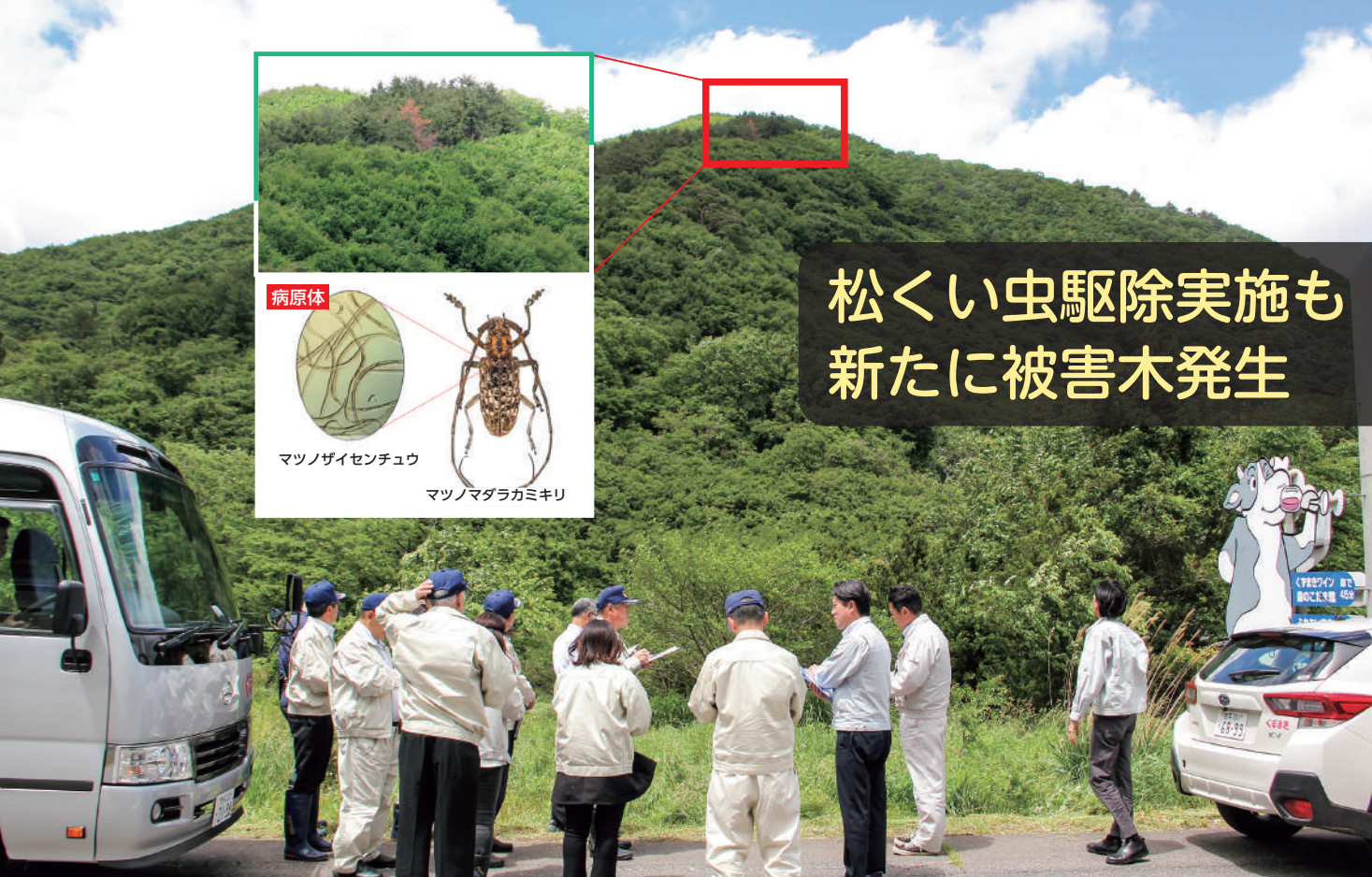




松くい虫被害箇所を確認(下冬部地区)

松くい虫駆除実施も 新たに被害木発生

**拡大が懸念される
松くい虫被害**

続いて松くい虫の被害状況を視察しました。

松くい虫被害は、マツノマダラカミキリが媒介する線虫により松が枯死するもので、一度発生すると周辺への被害拡大が懸念されます。

町内では、昨年7月にアカマツの枯死木1本が発見され、5月に駆除が完了しました。しかし、3月から4月に新たなアカマツ枯死木の情報が複数報告されています。

町では6月定例会議に駆除費用を計上した補正予算案を提案し、被害拡大防止に向けた対策を進めています。

担当者からは春駆除の期限は6月20日までと短く、材片調査と駆除作業を並行して実施しているとの説明を受けました。

早期の防除処理による被害拡大の防止と迅速な駆除体制の構築が望まれます。



葉たばこの凍霜害被害(鍋倉地区)



山ぶどうの被害(四日市地区)



町内現地視察

凍霜害により 町内農業に深刻な被害

山ぶどうと葉たばこの被害箇所を調査

5月23日未明の降霜により、町内の農作物に凍霜害被害が発生しました。

町議会では被害の実態を把握するため現地調査を実施しました。

町の主要産業である山ぶどうでは、圃場全体で新芽や花が影響を受け、生育や収穫量への影響、減収が懸念されています。

葉たばこでは下部の葉5〜6枚が枯れる被害が見られ、10〜15パーセント程度の減収が見込まれます。

町議会では、被害状況や今後の支援策について注視するとともに、生産者が安心して営農を継続できるような必要な支援策や対策を求めています。

輝くふるさと常任委員会(辰柳敬一委員長は、6月9日、5月に発生した農作物の凍霜害被害と昨年発生した松くい虫被害の現地調査のため、町内を視察しました。



凍霜害により大きな被害を受けた山ぶどう圃場(鍋倉地区)

松くい虫



小倉廣美さん(下冬部)

我が家の山を含め近所数軒の山で松くい虫被害が発生しました。先日、おかげさまで駆除が終わり、素早い対応に感謝しております。今後被害がこれ以上拡大しないことを願うばかりです。

葉たばこ



里澤 孝さん(星野)

現在の生育は順調ですが、下葉が5〜6枚焼けてしまい15パーセント前後の減収が見込まれます。町内の葉たばこ農家は6軒あり、栽培面積約310アールのほぼ全域で凍霜害の被害が確認されています。

山ぶどう



楢木健一さん(元町)

凍霜害で今年の収量はほぼゼロになりそうです。町の基幹産業である山ぶどうの振興とおいしいワインづくりのため、来年度以降も栽培を続けたいと思っています。